

授業に集中しやすい! 独自の学習環境

1学級約45人のクラス編成だが、生徒たちの集中力は落ちない。それは授業内容が生徒の興味を引くように工夫されているだけでなく、教室を廊下より数段上がった位置に設置した独自の設計にある。教室と廊下部分に段差をつけることで、通気性が高くなり、意図の切り替えもしやすい。



やさしい自然光と眺望も 抜群の図書・自習スペース

図書館の3階部分が、3万5000冊の蔵書を誇る図書ゾーン。約180席の自習スペースは、放課後にはほぼ満席になるという。事前に届け出れば、日曜日にも利用することができる。壁面の大半をガラス窓が占めているため、日中は自然光のもとで、読書や学習に集中することができる。

「誠実・明朗」を建学の精神として設立された同校。校舎は、教室とそれぞれの施設を一本の廊下で結ぶ回廊構造になっています。約5メートルの幅をとる、ゆったりとした交流スペースがある廊下は、落ち着いた雰囲気です。

「意図的に、空間に余裕を持たせています。豊かな心を育むためには、施設に機能性だけを求めるのではなく、ゆとりも必要だと考えています」(渡瀬金次郎教頭先生)

他にも、創立10周年時には各学式典が行われる建学記念講堂。20周年時にはパソコンやマルチビジョンなどを取り入れた図書館を

「誠実・明朗」を建学の精神として設立。昨年は、体育館を改修しました。「講堂は、人間形成の中心になります。各学式典の中心は、私語もなく、節度ある態度で臨みます。図書館は、知の創造という思いを込めて、さまざまな用途で利用されます」



見やすい、聞きやすい 充実のAV機器を導入した特別ルーム

図書館1階のマルチビジョンルーム。壁には、大画面のプロジェクタ、パソコンやDVD再生装置、音響装置などのAV機器を導入。100人の収容が可能で、授業や夏期講習、各種発表会のほか、オーストラリア、韓国などから毎年約30名を受け入れる交換留学生の説明会などにも利用されている。

統一された校舎の色彩は 学園の普遍性を象徴

校舎は、神楽台(しんがだい)という自然の台地の上に建設。町や車道の喧騒から離れた抜群の学習環境となっている。校舎や放送タワー、校門の外装は、時を経るごとに深みが出るタイル張り。その佇まいは、学園の普遍性を象徴している。



智辯学園和歌山



創立30周年を迎え色あせない 美と機能性が融合した学舎

校内に 3つの憩いの広場を設置

校舎出入口前の中庭は、水はけが良くクッション性の高い素材を使用。文化祭、少林寺拳法部はカククラブの練習など、多彩な活動場所として利用されている。校内には、中庭に加えて放送タワーの近くに広場が2か所あり、生徒の憩いの場として利用されている。



人生の航海へと旅立つ生徒のイメージ と船をモチーフとしたデザインの図書館

1998年に創立20周年記念として設立された図書館。1階フロアには、「普段から本物の芸術にふれさせたいのです」(渡瀬教頭先生)と、洋画家の佐藤光氏や彫刻家で同校の美術講師を務めた橋本和明氏ほか、和歌山県の著名なアーティストの作品を展示。大絵巻を展示している広間はコース部の練習や文化祭の発表の場として、日々、生徒たちの感性を育んでいる。

採光性・通気性を大幅アップ! 明るく機能的な運動環境

2007年にリニューアルされた体育館。床面の張替えとともに、舞台を撤去して卓球部などが活動できるスペースを確保。天井には、ドーム型野球場と同じテント式構造を新たに採用している。自然光と電灯によるトップライトで館内は常に明るく、通気性も飛躍的にアップした。



力強く高みを目指す! 同校のシンボル・放送タワー

特徴的なデザインから「シンボルタワー」と呼ばれる放送タワー。力強く天へ伸びる姿からは「持てる能力の最大限の同校」という教育理念が感じられる。塔内の2階が放送室で、日々放送部からのメッセージが送られる。3階より上は、地上から高さ16メートルの天井まで吹き抜け構造となっている。

